



平成27年6月1日

各 位

会 社 名 ハイブリッド・サービス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 吉田 弘明
(コード番号 2743 JASDAQ)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取締役副社長兼コーポレート本部長 本瀬 建
電 話 03-6731-3414

当社子会社不動産関連事業における特別損失計上に関する開示についての補足説明

当社が、平成27年3月6日に開示いたしました「当社子会社不動産関連事業における特別損失計上に関するお知らせ」につきまして、下記のとおり補足説明いたします。

記

当社子会社であるハイブリッド・ファシリティーズ株式会社（以下「子会社」といいます。）は、一昨年より当社の既存事業であるファシティー事業の業容拡大の為、ファシティー事業の一環として不動産関連事業に取り組んでまいりました。

当該物件の取り組みの経緯

当初、当該物件（東京都葛飾区所在の不動産）の子会社の取り組みは、販売主（当該物件のマンション仕入れ・販売業者）の当該物件の取得及び販売等に関するコンサルティングでありました。子会社と販売主がデベロッパー（当該物件のマンション建設業者・事業主）に対して子会社と販売主が共同で販売を行うと提案し、デベロッパーから受諾されておりました。その後、当該物件の仕入・販売を販売主で行い、子会社が当該物件の案件管理等（仕入・内外装・広告物に関するコンサルティング、現場管理、モデルルーム提案等）を行うと説明しておりました。その中で、子会社と販売主が共同で販売を行うことから、デベロッパーから販売主の仕入れ資金の支払いに対する保証を求められ、当該物件の竣工・引き渡しの間近であったことおよび子会社が販売主から相応の保証料が獲得出来ることからデベロッパーに対する販売主の支払いに対して保証を行いました。

この保証は、当該物件を平成27年4月14日までに仕入、全額支払うというもので、販売主が販売代金を回収することで十分支払えると考えておりました。

その後、販売状況の進捗から仕入債務を保証していながら販売主に販売を任せるとリスクが大きいと考え販売主との話し合いの上、子会社にて仕入・販売を行うこととし、平成26年12月26日に仕入・販売を行う地位を子会社が地位譲渡により譲受け、子会社と販売主が共同で当該物件に取り組んでいたことから、当該物件の取得に係る仕入れ付随費用及び販売経費について引き受けいたしました。

これにより、当該物件の仕入資金の支払いは保証ではなく、当該物件の仕入に対する支払いになりました。当該仕入に関しては、支払期日が到来し、所有権が子会社に移転する時と、当該物件がエンド顧客に販売され、その所有権がデベロッパーからエンド顧客に移転する時のいずれか早い時期に会計処理を行うことを予定しておりました。

なお、当社グループではマンション販売のノウハウがなかったことから、子会社が販売主の地位を譲り受ける

以前の平成26年11月5日に販売主と当該物件の販売に関する契約を締結しておりました株式会社クレドール（以下「クレドール社」といいます。）に譲受以降の当該物件の販売を委託しました。

当該物件の仕入代金の支払期日が近づいている中、クレドール社の販売状況から決済時に多額の資金負担が発生する可能性があったこと、また、取引金融機関等の理解を得られないと考えたため、資金負担及び損失を最小化するため当該物件から撤退することとし、当該物件における買主の地位の譲渡をクレドール社を含む数社に打診し、最も損失が少なかったクレドール社に譲渡することを考え、デベロッパーと話し合いのうえ、平成27年3月6日にクレドール社に買主の地位を譲渡いたしました。

この譲渡に伴い、クレドール社に地位譲渡の引き受け対価として67百万円、販売費用等の前払金等57百万円を事業整理損として計上した結果、124百万円（平成27年3月6日に概算値で126百万円と公表しておりましたが、確定値は124百万円となりました。）の事業整理損を計上いたしました。

今後の見通し

本地位譲渡によって、124百万円を事業整理損として特別損失に計上いたしました。また、平成27年5月6日付けでの株式交換により、当社を株式交換完全親会社、ルクソニア株式会社を株式交換完全子会社といたしました。本地位譲渡及び株式交換による完全子会社化による当社の連結業績への影響は現在精査中であり、当該影響は平成27年12月期第2四半期及び平成27年12月期の連結業績予想には含まれておりません。

以上